



Meet The TOMODACHI Generation

TOMODACHIとは

使命

TOMODACHIイニシアチブとは、東日本大震災後の日本の復興支援から生まれ、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して、日米の次世代のリーダーの育成を目指す公益財団法人米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップです。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協調的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の若いリーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。

背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道救援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本はTOMODACHIイニシアチブを開始しました。TOMODACHIは公益財団法人 米日カウンシルと東京米国大使館が主導し、日本政府および日米の企業、団体、個人から支援を受けています。

組織体制



米日カウンシル、在日米国大使館ならびにTOMODACHIイニシアチブ

米日カウンシル(U.S.)と米日カウンシル-ジャパンは、在日米国大使館と協力し、官民パートナーシップであるTOMODACHIイニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動としています。

米日カウンシル(U.S.)は、ワシントンD.C.に本部を置く501(c)(3)非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする日系米国人の団体です。

米日カウンシル-ジャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシル-ジャパンと米日カウンシル(U.S.)は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。寄付者はその拠点が米国、日本のいずれを問わず、TOMODACHIイニシアチブに寄付した場合、日米それぞれの非営利組織に関する法律の定める範囲内で税の優遇措置を受けることができます。

TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム2016

〈プログラムの目的〉

こんにちは！東北大4年の及川くるみです。私が参加したのは Johnson and Johnsonさんの協賛によるプログラムで、東北3県の看護学生を対象に災害看護を学び、リーダーシップを育成することを目的としたプログラムです。米国で約2週間、災害医療・看護の専門施設を訪問しました。帰国後はプログラムでの学びを共有するとともに、地域でアクティビティを行いました。



〈参加した理由〉

中学3年生の時に被災した経験から、災害看護に興味を持ち、自然災害だけでなく、テロの経験もあるアメリカの看護について知ることができる貴重な経験になると思ったので、思い切って参加しました。

ドクターヘリの中

〈プログラムの日程〉



観光
もし
ました！



- ①事前研修(仙台・東京)
- ②米国研修(ニューヨーク・ワシントンDC)
主な行先: ゴールドマンサックス、9.11トリビュートセンター、NYU 医療センター、国際連合、マウントサイナイ病院、ニュージャージー海岸、ラトガース大学、Johnson and Johnson本社、Children's National、アメリカ赤十字、国立衛生研究所、Fairfax County Task Force
- ③事後研修(それぞれの地域でアクティビティ)
- ④最終報告会

<参加した感想>

外傷対応のシミュレーション

①自分で仕事を作ってしまう！

アメリカで出会った方に、自分の役職を自分で作ったという方が何人かいらっしゃいました。求められていることを自分で見つけられるところがとてもかっこいいなと思いました！



避難用具の体験

②災害対策で心のケアが充実

災害の支援者の心のケアが充実していたり、支援者が被災地に派遣されている時に代わりに家族の母の日をお祝いしていたりと、心配りが素敵だなと思いました。

③人とのつながり、参加した後の活動

毎日沢山の方にお会いし、一つ一つがかけがえのない出会いになりました。そして帰国後もメンバーとの交流が途絶えることが無いことがとても嬉しいです！

<帰国後の変化>

アメリカに行って自分の地域のことを考える機会にもなったので、もっと地元のことを知りたい！魅力を伝えたいと思うようになりました。また、「質問しない人はバカ」という名言を研修を通して教えて頂いたので、常に前のめりでいろんなことに挑戦していきたいです！参加したメンバーや、前年度のメンバーとも一緒にイベントに参加する機会があったりと、その後もつながっていけるところがとても楽しいなと思っています！参加して本当によかったです。みなさん色々なプログラムにぜひ参加してみてください！

国連にて



アメリカンなソフトクリーム



TOMODACHI US-Japan Youth Exchange Program

日時 : 2017年7月15日～30日 アメリカ ワシントン D.C

2017年7月30日～8月15日 日本 (東京-南三陸-気仙沼)

TOMODACHI 米日ユース交流プログラムは、日米の高校生が交換留学を通し、異文化に対する気付きや理解を深め、社会起業家としての精神や地域コミュニティに対しての社会貢献のあり方を学びます。参加者は、ワシントン D.C の公立高校生 6 名と神奈川県慶応湘南藤沢高校から 3 名、東北アラムナイから 3 名です。チームワークや異文化交流の機会など体験型学習での学びを通し、社会起業家精神や市民活動について体感できるプログラムとなっています。ワシントン D.C.の生徒たちは、このプログラムで学んだ日米の社会起業家としての精神や地域貢献のあり方を振り返り、米国に帰国後に取り組めるプロジェクトを考えます。





去年、私はソフトバンクリーダーシッププログラムに参加しました。カリフォルニア大学バークレー校で3週間100名のTOMODACHIメンバーとともに学びました。東北の地域社会に貢献する方法を探求するとともに、アメリカの若者の団体による活動などを視察しました。Y-planを通して地域貢献活動について深く学び、ホームステイなどを通して、米国社会と文化への理解を深めました。

今年はアラムナイから3名が選ばれ、米日ユースに参加しました。この研修は私の考えを大きく変えました。D.Cでは、写真や詩を使う表現法や、多様性について学びました。日本では、自然との共生や地域復興について学びました。

プログラムが終わってから、自分がどれほど視野が狭かったかを知りました。そして、新たなゴールも見つけることができました。一番素晴らしかったことは、かけがえのないTOMODACHIと巡り会えたことです。いつか私たちは日本とアメリカ、そして世界各国の架け橋となると確信しています。



TOMODACHIサマー 2013

コカ・コーラ ホームステイ研修プログラム 体験記

こんにちは！コカ・コーラTOMODACHIproject2013に参加した現在大学3年生の笹崎ゆめで
す！このプログラムについて私の体験談を踏まえながら書いていきたいと思います(・∀・)

プログラムについて

このプログラムは、東日本大震災の被災地域の高校生を対象に行われた、高校生にアメリカ
での文化交流を体験する機会を提供することを目的としたホームステイプログラムです。私
が参加した2013年のプログラムでは120人の高校生がアメリカへ行きました。大まか
な日程は以下の通りです。

各県からバスで成田へ→成田でオリエンテーション後、アメリカへ出発→

アメリカ到着後2、3日は参加者全員で行動☆

ワシントンD.C. やアトランタ市を訪問しました。



↑ワールド・オブ・コカ・コーラ



↑マーティン・ルーサー・キング記念館

(裏側にはキング牧師の像が、、、)

ホワイトハウスと私→



その後、各グループ(15人)に分かれてホストファミリーの待つ町へ→

私はアメリカ西海岸にあるオレゴン州のセーラムという町に行きました。

気候も良く、のどかでとってもいい町でした(*^^*)

平日：(午前)現地の先生と英語の勉強

(午後)ピザパーティ、大学や福祉施設訪問、観光等

休日：ホストファミリーとのフリータイム

私の場合はホストファミリーの試合の応援やショッピング

みんながよく美味しいもの(しかも大きい!)を食べに行きました！

ホストファミリーとお別れをしてグループ毎成田に帰国



↑セーラムメンバーとの授業風景&ピザパーティ

このプログラムに参加した理由

私がこのプログラムに応募したのは高校1年生の冬でした。好奇心旺盛な私は学校に張り出された募集要項を見てすぐに応募を決めました！私が外国で勉強をしてみたいと思い始めたのは中学生のときです。ハリー・ポッターが大好きだった私は映画を観るたびに海外への愛を募らせていました(笑)そしてその海外愛は「海外で生活してみたい」「英語を話せるようになりたい」という気持ちに繋がっていきました。とは言っても中々勇気を出せずにいましたが、せっかく今アメリカに行かせてもらうチャンスが目の前にあるんだからと思い、勇気を出して応募することにしました！

プログラムに参加した感想

私がこのプログラムを通して学んだことを箇条書きにしてみました！

○アメリカ人のフレンドリーさ！

→アメリカ人のフレンドリーさは、英語の力に頼らずに、笑顔で話しかけてくれる人が多く、とても温かい雰囲気です。また、アメリカ人のフレンドリーさは、英語の力に頼らずに、笑顔で話しかけてくれる人が多く、とても温かい雰囲気です。



○積極性の大切さ

→初めは英語が上手に話せなくて、とても恥ずかしかった。でも、積極的に話しかけてみると、みんなとても優しく教えてくれた。積極的に話しかけると、みんなとても優しく教えてくれた。

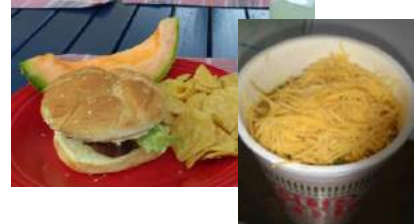


○発音の難しさ

→単語は当たっているのに発音が間違っていて伝わらないということがよくありました。特に「first」が何回も真似して言うても違ってしまうので、映画鑑賞を中断してスパルタ特訓を受けました(笑) ※本当は優しく教えてもらいました。

○食べ物のおいしさ

→ホームステイ中は朝から夜まで、いろいろな食べ物がありました。特に、アメリカ人のフレンドリーさは、英語の力に頼らずに、笑顔で話しかけてくれる人が多く、とても温かい雰囲気です。



まとめると、、、

とっても楽しかったです！！！！

プログラムを終えて



プログラムが終わり、宮城に帰ってきたときはとにかく「みんなに会いたいよ〜」という感情でいっぱいでした。それくらい充実したホームステイ生活を送れました！その後、私はホームステイ前と同じ医療従事者という夢に向かって勉強しています。最終地点は変わっていませんが、日々の生活の中での私の行動力はこの経験があってこそだと思います！以前は何かしようとするときに不安が勝ってやめてしまうことが多かったのですが、ホームステイで得た「とりあえずやってみよう」精神のおかげでプログラム後はどんどんチャレンジする癖ができました。その結果良かったこともそうでないこともありました。今充実した生活を送れているのもこの精神が身に付いたからだと言えます！このプログラムに参加できて本当によかったです！最後に、今何かやってみようか迷っている人に一言！

「とりあえずやってみよう！！！」



↑セーラムのみんな



↑授業が終わって海に行ったとき

↑とってもアクティブで自慢の
ホストファミリーと
(フェアウェルパーティで)



2013 年度

仙台・ダラス青少年訪問団 体験記

初めまして♪私は、2013年度の仙台・ダラス青少年交流訪問団に参加しました東北学院大学3年の小林梨乃です。私の体験記から1人でも多くの学生さんにTOMODACHIプログラムの大切さを知ってもらえたら嬉しいです!!

仙台・ダラス青少年訪問団って？

仙台・ダラス青少年訪問団とは、TOMODACHIイニシアチブの支援を受けて、宮城県仙台市と国際友好都市を提携しているアメリカ合衆国テキサス州ダラス市に、選抜された仙台市に住む学生、もしくは、仙台の学校に通っている学生を数人程度派遣します。派遣の目的としては、、、、

- ① 現地の青少年との関わりから異文化理解を深めること
- ② 東日本大震災支援のお礼と現在の復興状況を伝えてくること

私たちは、メンバー全員がこれらを意識して入念な準備をし、渡航を迎えました!!
また、将来的に、派遣された学生たちがこのプログラムで学んだことを生かして仙台市とダラス市の間で懸け橋になることが求められています。

日程について☆

○土日の過ごし方

土日は基本的に、ホストファミリーの方々と過ごします!
ダラスの観光地やショッピングに連れてってくれたり、ホストファミリーの方々とゴルフやボーリングをすることで、とても仲を深められました♪
また、アメリカの文化に触れたり、ダラスならではの観光地を巡ることが出来たので、とても充実した休日を過ごすことが出来ました!

○平日の過ごし方

現地の学生と一緒にダラス市議会を訪問し、ダラス市長に私たちのプログラムの目的の一つであった震災支援のお礼と現在の震災復興状況を伝えに行きました。また、ダラス市の観光名所や大学にも行き、ダラス市の歴史や文化について深く知ることが出来ました!!

このプログラムに参加した理由☆

私がこのプログラムに参加しようと決めた理由はたくさんあるのですが、一番の理由は、行動力と積極性を身につけたかったからです。その時の私は、行動する前に考え込んだり、自分の考えを相手に言えないような消極的な性格でした。そんな自分の短所を克服するために、同じ目的を持ったメンバーと一緒に頑張りたいと強く思ったのがきっかけです!!

このプログラムに参加した感想は？

渡航してから4年が経ちましたが、今でも鮮明に活動した頃を覚えています。それだけこのプログラムを通して学んだことや楽しかったことがたくさんあり、私の人生に大きな影響を与えてくれたということです。私が渡航して学んだことをまとめてみました^^

○積極的になることの大切さ

積極的になることで、自分の可能性と欠点に気付くことが出来るので、自分を磨くことが出来ると感じました。渡航中は、自分で考えて行動しなければいけない場面がたくさんあったので、自信が無くてもとにかく行動することを意識し、今まで分からなかった自分を知ることが出来ました♪

○ダラス市の人々の東日本大震災についての理解

ダラス市での日本の震災については、あることもないことも伝えてられているので、ダラス市の人々は、震災の真実をあまり知らない知り、衝撃を受けました。その時、私たち被災者がすべきことは、震災を知らない外国人の方々に事実を発信していくことだと強く思いました。

○異文化交流の大切さ

現地の学生と関わりを持つことで、今まで気付かなかった日本とアメリカの良さを知ることが出来ました。また、毎日一緒に活動することで仲を深め、今でも連絡を取り合うほどの友達も現地でたくさん作ることが出来ました^^

☆最後に、、、

TOMODACHI プログラムは、たくさんの種類がありますが、どれもあなたを必ず成長させてくれます!!私もそれを強く実感した一人です。昔は、自分から動くことが苦手でしたが、このプログラムに参加してから、海外に興味を持つようになり、今では、カンボジアの貧しい地域での小学校教育を考えるプロジェクトに携わっています。自分でやりたいことを見つけられたのも、全てこのプログラムに参加出来たおかげです♪自分を成長させたい方、何かに挑戦したい方は、まず、あまり深く考えずに、応募してみましょう!!^^きっと自分の成長を感じる時が来ると思います♪

TOMODACHI世代グローバル・ リーダーシップ・アカデミー2016

TOMODACHI Generation Global Leadership Academy 2016



過去にTOMODACHIプログラムに参加した高校生、大学生が東京に集まり、3日間のワークショップを通して、チームワークやリーダーシップを学びながら、東北の未来や若い世代がどのように社会に貢献できるか考えるプログラムです。

こんにちは。高2の時にこのプログラムに参加した東北大学1年 千葉真子です。TOMODACHIプログラムはほかにTOMODACHIソフトバンクリーダーシッププログラムに参加しました。裏面に私が参加した時の内容や感想をまとめているので、興味を持ってくれた方、ぜひ最後まで読んでみてください！



1日目

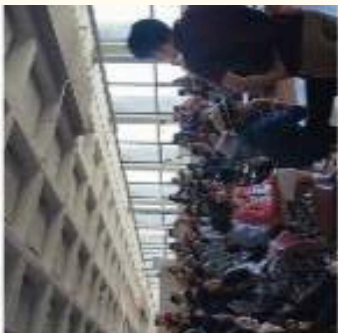
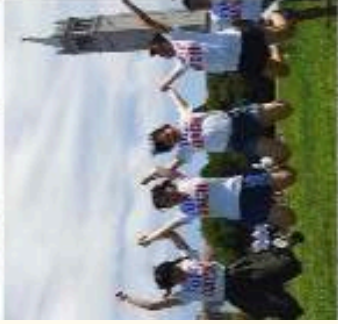
オリエンテーション、アイスブレイキングの後、「TOMODACHIからの学びの共有・振り返り」「これまでの5年:東日本大震災後、地域コミュニティにおける取り組みと歩み」というワークショップを行いました。同じTOMODACHIアラムナイでも違うプログラムに参加した人の話を聞くことができ、それぞれ本当に色々な体験をしているので面白いです！

2日目

スピーカセッションとワークショップの後に「これからの5年:今の課題と今後解決すべきこと」「今後5年での重要課題と解決策」について提言を作成しました。私は岩手県と宮城県の内陸部の高校生が集まったチームでした。私たちは課題として、沿岸部よりも震災の被害は小さかったけれど、自分の街に対して熱い思いを持つ若者が少ないことを挙げ、この課題と指定された「テクノロジー」の分野を関連させたアクションプランを考えました。住んでいる地域がバラバラなので共通の課題を見つけるまでにも時間がかかり、アクションプランを考えるのにもさらに時間がかかりましたが、今までで一番熱い話し合いができました。また、夜には日米関係に関わる若手リーダーたちと食事をしながらお話を伺いました。人との出会いを大事にしてつながり続けられるようにしなさいというアドバイスが印象に残っています。

3日目

最終日には、各界のリーダーとのランチセッションと行政、民間、メディア、NGOなどのリーダーに向けた提言発表会がありました。羽田空港の素敵な場所でプレゼンをさせてもらえて、本当にワクワクしました。提言発表では最優秀賞は逃しましたが、前日に夜中までかかって完成させたアクションプランは納得のいくものでしたし、プレゼンも細部までこだわってできたので満足できました。



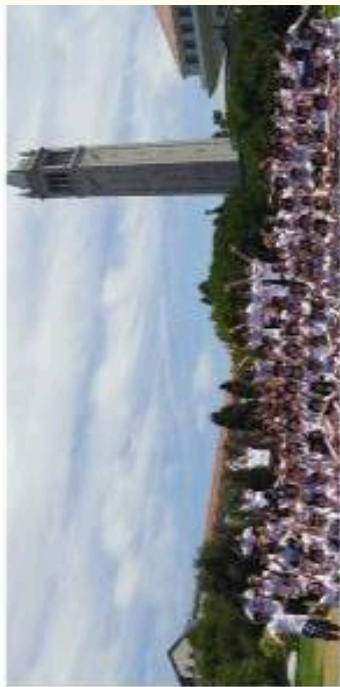
TOMODACHIサマー・ソフトバンク・ リーダーシップ・プログラム

このプログラムは、高2の時にこのプログラムに参加した東北大学1年千葉真子です。もっと積極的になりたいと考えていました。プログラムに興味をもってくれたみなさん、ぜひ最後まで読んでくれたら嬉しいです。

このプログラムは岩手、宮城、福島の高校生100人が夏休み3週間、カリフォルニア大学バークレー校でY-PLAN (youth, plans, learn, act, now) という問題解決型のワークショップを用いて、地域貢献とリーダーシップを学ぶプログラムです！

到着した4つのチームに分かれて生活します。

授業は基本的に日本語で行われ、英語は訳してくれるので安心です。
裏面で授業の流れについて詳しく説明します！





最初の2週間はアメリカの街が舞台! 各チームで地域活性化の方法を考えます。まずは街を調査の細かい点まで注目すると面白いもの。次にマップングして課題を見つけます。その後は解決策を考え、フェイスブックで発信していきます。みんなが必死なので、ぶつかる事もありますが、ハンパな意見を出していきます。そして最後はプレゼン! 緊張しますが、始まる前のワクワク感と終わった後の達成感は大変素晴らしいです!

ラスト1週間は帰国後に地元で行うアクションプランを考えます。正解はないので、自分がやりたいうことを考え抜きます。困ったときは先生やアダルトアライズという大人たち、友達が相談に乗ってくれます。最後には自分のアクションプランをプレゼンしたらアメリカでの活動はおしまいです。帰国後もアダルトアライズの方々がサポートしてくれるので安心です。

私は商店街に「小さな図書館」を作り、地域の方が気軽に集まれる場所にすることを計画し、約1年後に完成しました。今は後輩たちが引き継いでくれていきます。アクションを通して地域のNPOの方をはじめ、本当に多くの方に支えられていると実感し、地元が大好きになりました。自信もつきました!

バーレードでは2,3人部屋で寮生活。自由時間は卓球やビリヤードを楽しくしました。各方面で活躍する方のお話を聞く機会もたくさんあって、将来について考えるきっかけになりました! 週末はホームステイや観光もできます! ショッピングをしたり、野球観戦をしたり、ゴールデンゲートブリッジをみたり、、、ここでは言い尽くせないほどアメリカを感じられます。

参加したら絶対、自分の中で何かが変わるの、何でもいいから何かやってみてみたい人に本当におすすめしたいプログラムです!



International Exchange Program

宮城県白石高等学校3年 谷津 瑞穂

□ TOMODACHI とは？ □

東日本大震災を受け、東北の子供たちに世界に羽ばたくチャンスを与えようと2012年度から始まったTOMODACHIイニシアチブによる国際交流事業は今年で6年目を迎え、これまで様々な企業の協力を得て無償で東北の中高生を米国へ招待するなど、様々なプログラムを提供してきました。このプログラムはMUFG三菱UFJフィナンシャルグループの協力を得て、毎年夏に奇数回は日本からアメリカへ、偶数回はアメリカから日本へと中高生を派遣し、第5回の昨年は岩手・宮城・福島の中北3県の中学3年生から高校3年生20名が米国カリフォルニア州ロサンゼルスを訪れ、約2週間に渡って日米間の文化交流活動を行いました。

□ 応募したきっかけ □

「日本から絶対に出たくない！」とずっと思っていた私を変えてくれたのは中学校3年時の担任の先生でした。その先生のお陰で英語が大好きになり、いつしかただ漠然と「外国に行ってみよう」と思うようになりました。その頃いろいろなプログラムを探しているうちにこのプログラムに辿り着き、「高校生になったら絶対にこれでアメリカに行く！」と心に決めていました。将来はNGO団体などで発展途上国の支援に携わりたいと思っていたので、様々な国との関わりを持ってきた世界大国であるアメリカを訪れ、国際関係について世界が迎ってきた明るい過去も暗い過去も含めて様々な歴史を自分の目で確かめたいという思いで応募しました。

□ TOMODACHI での2週間 □

7月23日 仙台発 成田泊	7月24日 LA 着サンタ モニカ散策	7月25日 Union Bank HL 見学	7月26日 英語研修 総領事館	7月27日 CA サイエ ンセンター	7月28日 ヤクルトUS 社	7月29日 英語研修 Caltech	7月30日 ホームステ イ
7月31日 ホームステ イ	8月1日 ホームステ イ	8月2日 ホームステ イ	8月3日 フェアウェ ル party	8月4日 ディズニー ランド	8月5日 LA 発	8月6日 帰国 解散	

最初の1週間はUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)の学生寮に滞在し、大学内で英語のレッスンを受けたり、このプログラムに協賛して下さったMUFGのアメリカ子会社であるユニオン・バンクの社員の方や全米日系人博物館の日本人ボランティアの方などから米国で活躍する日本人のお話を直接お聞きすることが出来ました。中でも全米日系人博物館では、大戦中に母国を離れ米国で苦難な生活を余儀なくされた話を聞き、今でこそ友好関係にある日米両国もかつては暗い過去があったということを知り、国際関係を戦力を交えずに改善するための国際政治の仕組みについて学びたいとさらに強く思うようになりました。

また、普段は入れないようなロサンゼルス日本国総領事館を訪問し、アフターヌーンティーにおいて日米協会の方々や総領事館の方々と英語でコミュニケーションを取りながら、日本のいい所や宮城の観光についてなど様々な会話を楽しく交わしました。最初は全く自分の英語に自信がありませんでしたが、必死に理解しようと聞いてくれる相手を見て、大切なのは自分の伝えたいことを一生懸命伝えようとする姿勢だということを感じ、「自分の英語が通じた！」という喜びはとても大きいものでした。

そして、後半はプログラムに協賛して下さったユニオン・バンクの社員の方等の自宅でお世話になりホームステイ活動を行いました。初めは出会ったばかりの家族と一緒に生活することに対して不安もありましたが、そんな不安はすぐに無くなりました。衣食住の文化はもちろん異なりますが、それはホストファミリーも十分に理解してくれていますし、お客さんとしてではなく本当の家族のように私たちを受け入れてくれるので、前半の寮での滞在とは異なりより文化の違いを肌で感じる事が出来ました。一緒に買い物をしたりメキシコ料理を作ったり(カリフォルニア南部ではメキシコ国境に近いためポピュラーです)、海へ行ったりしました。また、LA ボランティアセンターを訪問し、ホストファミリーと一緒にホームレスの方に配る料理を作る活動をしました。たった6日間ではありましたが、お別れの涙が辛くなるほど深い絆が生まれ、今でも連絡を取り合ったりしています。



私は宮城県南部、過疎化や高齢化が著しく進行している白石市に在住しており、田舎の高校で海外に行く人も少ない環境の中で生活してきましたが、今回のプログラムを通して海外に興味のある意識の高い仲間、同じ夢を持つ仲間に出会うことができ、毎日たくさんの刺激を受けました。



また、今回が私にとって初めての海外経験となりましたが、この2週間を通して日本をいろいろな視点から見ることが出来るようになりました。日本の良いところ(清潔、街がきれい、時間の正確さ、丁寧、etc...)を改めて感じると同時に、それだけではなく、日本人にはない外国人の「分からないことは分からないと言える強さ」の大切さも身をもって感じました。そしてそれが、臆病な自分を変えるきっかけとなり困難なことにも果敢に挑戦しようという決意にもなりました。

知っているつもりではいても自分の母国である日本のことを意外と知らなかったり、日本を出たからこそ気付くことがた

くさんあり、もっと地元のこと、日本のことをたくさん知ろうという意識が生まれるようになりました。そして、田舎である地元にもさらに国際交流の魅力を伝えていきたいと思い、自分に出来ることとして今こうしてプログラムの体験談を伝える活動をしています。

来夏は2年ぶりに日本から米国へと生徒が派遣されます。私の人生を変えるきっかけとなった“TOMODACHI”との出会いを、皆さんも体験してみませんか？TOMODACHIは米国でのプログラム活動で終わりなのではなく、プログラム修了生(アラムナイ)対象の様々なイベントが企画されており、帰国後もTOMODACHIの仲間たちとのつながりを持ちながらリーダーシップ・キャリア形成等のイベントに参加することが出来ます。是非皆さんも未来のTOMODACHI生になりませんか？



Drucker for Future Japanese Leaders(DFJL)

東北大学経済学部2年 小松怜奈

概要：カリフォルニア州Claremont大学に所属するThe Drucker Instituteが運営する、リーダーシップスキルを学ぶ為のプログラム

日程：2014/7/26～8/3

目的：経営学の父、ピータードラッカーの教えによって”マネジメント”の基礎を学ぶ

内容：顕在する問題の解決を通して地域社会に貢献する手段を学び、社会貢献活動プランを作成する。さらにそこから自分自身の学業目標や将来の目標を効率的、効果的に達成する為に短期的・長期的な自己管理プランを作成する。

《参加した理由》

私自身ファッション業界における企業経営や企業の社会的責任に興味があり、高校卒業後は大学で経済学と経営学を学びたいという思いがあった。大学進学を前に経営学について少し見識を高めると共に、自分のリーダーシップ力について考えてみたいと思い、このプログラムに参加した。

《参加した感想》

まずマネジメントと聞くと企業経営という堅苦しい分野をイメージしたが、それは人間生活における全てに関わるものだ気付かされた。何か1つの目標を達成するためにも、それに関する徹底的分析力とそれを計画的に実行出来るマネジメント力が求められる。このプログラムは10人という少人数制であったため、一週間という短い期間ながらも、高い志を持つ同年代のメンバーに感化されながら切磋琢磨できる非常に濃い時間であった。主体的な思考力、英語での発言力、プレゼンテーション能力といったグローバルリーダーに必要なとされる能力を磨くことができたと自負している。

《帰国後の変化》

大学受験を控えた夏にこのプログラムに参加し、帰国後はとりわけ学業において目標の明確化を強く意識するようになった。現在大学では経済学部所属して経済学と経営学を学んでいるが、その上でこのプログラムで学んだマネジメントの基本が根幹になっていると感じる。また、このような短期海外プログラムは、無論語学留学ではないので英語の飛躍的スキルアップがはかれるわけではない。しかし、海外という普段とは違う環境に身を置き、限られた時間で何か目標に向けて全力で取り組むことの出来る時間は圧倒的に意味のあるものだと考える。DFJLを通して得たこういった気付きが、現在の大学生生活の充実に、ひいてはその先にも繋がっていると考える。

